

♪ 2021年度 **poco a poco** ♪

Nr. 5

2021年5月20日(木)

文責:プファイル・辰巳

Komm, lieber Mai, und mache... ♪
~Sehnsucht nach Frühling~ (春への憧れ)

詞 : オーヴァーベック

曲 : モーツァルト



Komm lieber Mai, und mache
die Bäume wieder grün,
Und lass mir an dem Bache
die kleinen Veilchen blüh'n!
Wie möcht' ich doch so gerne
ein Veilchen wieder seh'n!
Ach, lieber Mai, wie gerne
einmal spazieren geh'n.

愛しい5月よ、来ておくれ
そして木々を緑にしておくれ
わたしのために 小川のほとりに
可愛いすみれを咲かせておくれ
わたしは どんなにか 再び
すみれを見たいと思っていることか
ああ 愛しい5月よ 私はどんなにか
散歩に行きたいと思っていることか

5月という言葉が出てきますが、本来は春への憧れを冬の間に歌う曲です。作曲はモーツァルトで、K596(ケツヘル番号=モーツァルトの作品番号)となっています。モーツァルトの晩年の作品です。この作品の一つ前、つまりK595番は、ピアノ協奏曲第27番なのですが、その第3楽章のメロディが、この歌曲の基になっています。

例年ですと5月は天候も安定し、もう少し暖かな日も多いはずですが、今年の5月は雨が多く、肌寒い日が多いですね。それでも木々の緑は瑞々しく、りんご、ライラック、マロニエなどの花が真っ盛りになりました。天候が安定すれば青空が広がり、さわやかなドイツの初夏を楽しむことができるでしょう。コロナ感染者数の減少化傾向とともに、天候も安定してくれることを祈りましょう。

音楽こぼれ話 <楽譜出版のお話 ③>

世界最古の音楽出版社は…>

世界最古の音楽出版社は、ドイツの Breitkopf und Härtel (ブライトコプフ & ヘルテル) という会社です。ライプツィヒはフランクフルトと並んで、現在もブックメッセが開かれる書籍出版の町であり、また、J.S. バッハをはじめシューマン、メンデルスゾーン、ワーグナー、グリーグなど、数多くの作曲家が住んだ音楽の町でもあります。日本の作曲家、滝廉太郎も留学していました。そのライプツィヒで世界最古の音楽出版社も、1719年に創業されました。Bernhard Christoph Breitkopf という人が創業者で、1800年から Härtel 家に引き継がれたので、この社名になっています。



1732年、新社屋を作る際に、“Goldener Bär” というレストランの建物を改築して使用したことから、現在も使われているこの出版社のマークが生まれました。

1736年に J.S. バッハの歌曲集が出版された時は、作曲者の大バッハが存命中で、その出版に一役買ったということです。また文豪ゲーテも、この創業者の一族と親交があったといえます。

19世紀に入ると、ベートーヴェンをはじめ、シューベルトやウェーバー、シューマン、リスト、ショパンなどの大作曲家の作品も次々と出版されました。第2次世界大戦中には、ブライトコプフ & ヘルテル社の社屋も空爆を受けました。しかしながら、この時戦火を免れた古い楽譜や出版物もあり、これらは現在貴重な資料として、ライプツィヒの国立古文書館に残っているそうです。

大戦後、会社の拠点はヴィースバーデンに移されました。ヴィースバーデンの旧市街北西に Albrecht-Dürer-Anlage という緑地帯があり、その周囲は静かな住宅街になっています。その中に、ひっそりとブライトコプフ & ヘルテルの本社があります。その他にも、創業地のライプツィヒと国外拠点としてパリにも社屋をおいているそうです。

創業300年の歴史を誇り、現在も世界中の音楽家たちが手にする楽譜を出版し続けている老舗ブライトコプフ & ヘルテル社。ピアノやヴァイオリンなどの楽器を習っている人は、自分の使っている楽譜がどこから出版されているか、ちょっと確かめてみてください。1719年と書かれた楽譜を手にするクマちゃんマークがついていたら、それは、このブライトコプフ & ヘルテル社の楽譜ですよ。